

農家経営規模は拡大の傾向 ……………

〔2月号から続く〕

6. 経営耕地面積

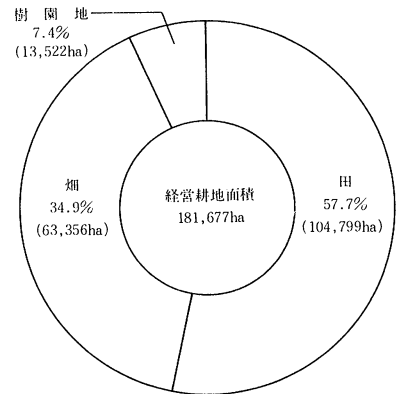
経営耕地面積は181,677haで、前回と比べて2,633ha(1.4%)減少した。この内訳をみると、田が104,799haで482ha(0.5%)、畑が63,356haで1,950ha(3.0%)、樹園地が13,522haで201ha(1.5%)減少した。

経営耕地面積のうち、田は57.7%を占めているが、田の内訳を前回と比べると「普通田」が6,672ha(7.6%)、「陸田」が3,206ha(22.7%)減少し、「その他の田」が2,614ha(193.2%)、「作付しなかった田」が6,782ha(411.5%)と大幅に増加した。

畑の耕地面積を内訳毎に前回と比べると、「普通畑」が3,067ha(5.1%)減少し、「牧草専用畑」が179ha(10.6%)、「作付しなかった畑」が938ha(23.7%)増加した。

樹園地の耕地面積を内訳毎に前回と比べると、「果樹園」が164ha(2.1%)、茶園が82ha(10.8%)、桑園が36ha(0.8%)

図一8 経営耕地面積の構成



減少した。

次に、経営耕地面積を地域別にみると、田の割合が一番高いのは県西地域の64.5%、次いで県南地域の62.5%とな

表一9 経営耕地面積

(単位：ha)

年次	経営耕地面積	田					過去1年間全く作付しなかった田
		計	普通田	陸田	その他の田		
実数	昭和47年	195 874	104 385	87 774	9 447	1 019	6 145
	49	190 028	102 787	85 776	10 372	1 234	5 405
	51	186 077	102 943	87 987	11 698	1 096	2 162
	53	184 310	105 281	88 175	14 105	1 353	1 648
	56	181 677	104 799	81 503	10 899	3 967	8 430
増減数	47～49	△ 5 846	△ 1 598	△ 1 998	925	215	△ 740
	49～51	△ 3 951	156	2 211	1 326	△ 138	△ 3 243
	51～53	△ 1 767	2 338	188	2 407	257	△ 515
	53～56	△ 2 633	△ 482	△ 6 672	△ 3 206	2 614	6 782

年次	経営耕地面積	畑				樹園地				
		計	普通畑	牧草専用畑	過去1年間全く作付しなかった畑	計	果樹園	茶	桑園	その他
実数	昭和47年	78 295	73 259	1 399	3 637	13 194	7 135	654	5 075	330
	49	72 945	66 383	1 391	5 171	14 296	8 063	729	5 121	383
	51	68 890	63 050	1 375	4 465	14 244	8 059	739	4 895	551
	53	65 306	59 658	1 694	3 954	13 723	7 940	757	4 551	475
	56	63 356	56 591	1 873	4 892	13 522	7 776	675	4 515	556
増減数	47～49	△ 5 350	△ 6 876	△ 8	1 534	1 102	928	75	46	53
	49～51	△ 4 055	△ 3 333	△ 16	△ 706	△ 52	△ 4	10	△ 226	168
	51～53	△ 3 584	△ 3 392	319	△ 511	△ 521	△ 119	18	△ 344	△ 76
	53～56	△ 1 950	△ 3 067	179	938	△ 201	△ 164	△ 82	△ 36	81

昭和三十九年茨城県農業基本調査結果の概要から(下)

っている。畑では鹿行地域の50.8%が最も高く、次いで県北地域の38.5%となっている。

また、1戸当たりの経営耕地面積は前回と比べて0.01ha増加して1.06haとなった。

〔47年以降の推移〕

47年と比べると経営耕地面積が14,197ha(7.3%)、畑が14,939ha(19.1%)減少したが、水田は414ha(0.4%)、樹園地は328ha(2.5%)増加した。

7. 作物別収穫面積

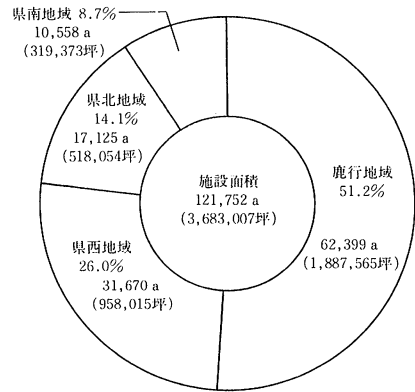
収穫面積は163,318haで、前回(53年)に比べて7,696ha(4.5%)減少した。これを種類別にみると、稲が12,990ha(11.7%)、野菜類が726ha(3.4%)減少したが、飼料用作物が815ha(42.4%)、麦が3,511ha(37.7%)、豆類が1,007ha(28.0%)、花き類が125ha(14.8%)増加した。

なお、飼料用作物、麦類、豆類が増加し、稲作が減少したのは、昭和53年からの水田利用再編対策事業の推進によるものと考えられる。

〔47年以降の推移〕

47年と比べると収穫面積が30,847ha(15.9%)、麦が12,753ha(49.8%)、工芸作物が5,067ha(23.3%)、稲が13,619ha(12.2%)減少したが、花き類が612ha(171.4%)、豆類が1,223ha(36.1%)、飼料用作物が724ha(36.0%)増加した。

図一 地域別施設面積



8. 施設園芸農家数と面積

施設農家数は8,184戸となり、前回(53年)に比べて1,513戸(22.7%)増加した。

地域別にみると鹿行地域が61.2%、県北地域が7.1%、県西地域が4.3%増加したが県南地域では7.3%減少した。

次に、施設面積は121,752 a (3,683,007坪)となり、前回と比べて37,868 a (1,145,492坪, 45.1%)増加した。これを地域別に前回と比べると、鹿行地域が78.7%、県北地域が

表一 10 地域別経営耕地面積

(単位：戸，ha，%)

地域	農家数	経営耕地面積		田		畑		樹園地	
		農家1戸当たり	構成比	構成比	構成比	構成比			
全 県	170 850	181 677	1.06	104 799	57.7	63 356	34.9	13 522	7.4
県 北	63 052	55 907	0.89	28 992	51.9	21 553	38.5	5 362	9.6
鹿 行	19 348	22 331	1.15	10 213	45.7	11 332	50.8	786	3.5
県 南	46 933	57 021	1.21	35 637	62.5	16 267	28.5	5 117	9.0
県 西	41 517	46 418	1.12	29 957	64.5	14 204	30.6	2 257	4.9

表一 11 収 穫 面 積

(単位：ha)

年 次	計	稲	麦	いも類	豆 類	工芸作物	野 菜 類	花 き 類	飼料用作物
昭和47年	194 165	111 393	25 587	8 319	3 384	21 757	21 355	357	2 013
49	178 635	108 233	13 540	5 595	3 644	20 577	24 473	635	1 938
51	175 879	110 648	10 560	6 421	3 738	18 776	23 373	881	1 482
53	171 014	110 764	9 323	6 473	3 600	16 498	21 590	844	1 922
56	163 318	97 774	12 834	6 843	4 607	16 690	20 864	969	2 737

調査から

42.6%，県西地域が15.1%，県南地域が12.0%増加した。

加温施設のある農家は2,490戸で施設農家数の30.4%を占め，加温施設面積は32,117 a (971,554坪)で施設面積の26.4%を占めている。

施設農家1戸当たりの施設面積は14.9 a (450.0坪)となり，前回に比べて2.3 a (69.7坪，18.3%)増加した。これを地域別にみると鹿行地域が16.7 a (505.5坪)と最も多く，次いで県西地域の16.0 a (484.5坪)，県北地域の11.9 a (359.5坪)，県南地域の10.2 a (309.4坪)の順になっている。

〔47年以降の推移〕

47年と比べると施設農家数が1,148戸(16.3%)，面積が64,883 a (1,962,727坪，114.1%)，1戸当たりの面積は6.8 a (205.6坪，84.0%)増加した。

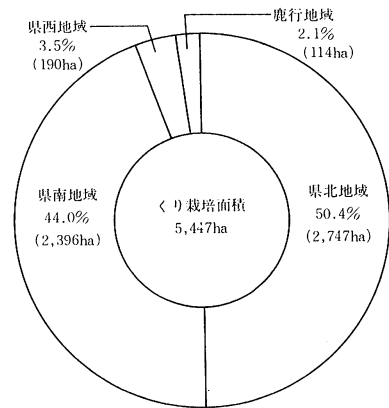
表一12 施設園芸の施設のある農家数と面積

年次	農家数	面積	農家1戸当たりの面積
昭和47年	7 036 ^{ri}	56 869 ^a (1 720 280) ^{pp}	8.1 ^a (244.4) ^{pp}
49	7 843	74 278 (2 246 904)	9.5 (286.4)
51	6 933	79 032 (2 390 718)	11.4 (344.8)
53	6 671	83 885 (2 537 515)	12.6 (380.3)
56	8 184	121 752 (3 683 007)	14.9 (450.0)
	うち加温 2 490	うち加温 32 117 (971 554)	

9. 果樹栽培農家数と面積

果樹栽培延農家数は23,341戸で，前回(53年)と比べると1,435戸(5.8%)減少した。これを種類別にみると，みかんが89戸(25.7%)，くりが1,188戸(7.6%)，なしが203戸

図一10 地域別くり栽培面積



(5.6%)減少し，ぶどうが78戸(12.5%)増加した。

果樹の栽培面積は7,776haで，前回より164ha(2.1%)減少した。種類別にみるとみかんが11ha(20.0%)，くりが309ha(5.4%)減少し，ぶどうが49ha(27.2%)，なしが70ha(5.5%)増加した。

当県の主な果樹であるくりとなしの栽培面積を地域別にみると，くりは県北地域の50.4%が最も高く，次いで県南地域の44.0%と続き，この両地域で全体の94.4%を占め，なしは県西地域の46.0%が最も高く，次いで県南地域の42.0%と続きこの両地域で全体の88.0%を占めている。

〔47年以降の推移〕

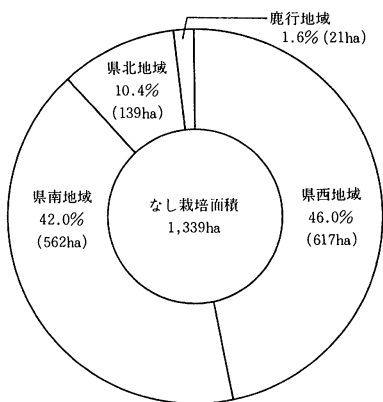
栽培面積を47年と比べると，641ha(9.0%)増加した。種類別にみると，ぶどうが121ha(112.0%)，かきか83ha

表一13 果樹栽培農家数と面積

(単位：戸，ha)

年次	計	くり	なし	かき	もも	ぶどう	みかん	りんご	うめ	その他
栽培農家数										
昭和47年	22 676	14 145	3 726	1 396	260	475	461	197	1 581	435
49	24 822	15 730	3 913	1 487	145	530	476	164	1 925	452
51	24 798	15 825	3 726	1 422	127	577	417	134	2 091	479
53	24 776	15 699	3 647	1 505	92	623	347	109	2 317	437
56	23 341	14 511	3 444	1 476	78	701	258	106	2 276	491
栽培面積										
47	7 135	5 322	1 030	245	31	108	76	58	198	67
49	8 064	5 977	1 187	282	18	137	70	48	243	102
51	8 059	5 928	1 215	280	15	166	64	46	244	101
53	7 940	5 756	1 269	298	12	180	55	41	250	79
56	7 776	5 447	1 339	328	14	229	44	39	245	91

図-11 地域別なし栽培面積



(33.9%), なしが309ha(30.0%), うめが47ha(23.7%), くりが125ha(2.4%)増加したが, ももが17ha(54.8%), みかんが32ha(42.1%), りんごが19ha(32.8%)減少した。

10. 家畜・家さんの飼養農家数と頭羽数

飼養戸数は, 乳用牛が2,298戸で前回(53年)に比べて379戸(14.2%), 肉用牛が4,635戸で950戸(17.0%), 豚が8,323戸で4,392戸(34.5%), 鶏が3,522戸で2,948戸(45.6%), プロイラーが279戸で40戸(12.5%)減少したが, 飼養頭羽数は乳用牛が48,112頭で前回に比べ3,014頭(6.7%), 肉用牛が31,176頭で3,504頭(12.7%), 豚が524,596頭で45,836頭(9.6%), プロイラーが3,036,070羽で549,740羽(22.1%)増加した。

また, 1戸当たりの飼養頭羽数は, 乳用牛が20.9頭で前回に比べ4.1頭(24.4%), 肉用牛が6.7頭で1.7頭(34.0%), 豚が63.0頭で22.3

頭(67.1%), 鶏が598.7羽で232.5羽(63.5%), プロイラーが10,882.0羽で3,087.9羽(39.6%)増加した。これは畜産の経営規模が拡大していることを示している。

なお, 豚と鶏の飼養頭羽数を地域別にみると, 豚は県南地域が34.1%と最も高く, 県西地域の22.9%, 県北地域の21.8%, 鹿行地域の21.2%の順になり, 鶏は県北地域が44.7%と最も高く, 県西地域の28.8%, 県南地域の15.5%, 鹿行地域の11.0%の順になっている。

種類別に飼養規模別農家数をみると, 「2歳以上の乳用牛」は16~29頭の農家が559戸(27.3%)と最も多く, 次いで10~15頭の農家が475戸(23.1%), 30~49頭の農家が318戸(15.5%), 7~9頭の農家が205戸(10.0%)の順になっている。これを規模別に前回と比べると, 15頭以下の農家が418戸(27.4%)減少し, 16頭以上の農家が945頭で前回より150戸(18.9%)増加した。

表-14 家畜・家さんの飼養農家数と頭羽数

(単位: 戸, 頭, 羽)

年次		乳用牛	肉用牛	豚	鶏	プロイラー	
飼養農家数	昭和47年	4 900	10 407	27 471	...	791	
	49	3 586	7 625	20 679	18 525	543	
	51	2 954	6 177	14 276	10 120	386	
	53	2 677	5 585	12 715	6 470	319	
	56	2 298	4 635	8 323	3 522	279	
飼養頭羽数	47	38 469	21 110	431 995	2 263 349	2 432 787	
	49	40 902	24 886	500 303	2 021 018	2 507 350	
	51	41 523	23 852	434 610	2 009 532	2 424 260	
	53	45 098	27 672	478 760	2 369 041	2 486 330	
	56	48 112	31 176	524 596	2 108 602	3 036 070	
増減数	飼養農家数	47~49	△ 1 314	△ 2 782	△ 6 792	...	△ 248
		49~51	△ 632	△ 1 448	△ 6 403	△ 8 405	△ 157
		51~53	△ 277	△ 592	△ 1 561	△ 3 650	△ 67
		53~56	△ 379	△ 950	△ 4 392	△ 2 948	△ 40
飼養頭羽数	47~49	2 433	3 776	68 308	△ 242 331	74 563	
	49~51	621	△ 1 034	△ 65 693	△ 11 486	△ 83 090	
	51~53	3 575	3 820	44 150	359 509	62 070	
	53~56	3 014	3 504	45 836	△ 260 439	549 740	
飼養農家1戸当たりの飼養頭羽数	47	7.9	2.0	15.7	...	3 075.6	
	49	11.4	3.3	24.2	109.1	4 617.6	
	51	14.1	3.9	30.4	198.6	6 280.5	
	53	16.8	5.0	37.7	366.2	7 794.1	
56	20.9	6.7	63.0	598.7	10 882.0		

■ 調査から

「肥育中の牛」は1頭の農家が1,043戸(38.1%)と最も多く、次いで5頭以上の850戸(31.1%)、2頭の農家が508戸(18.6%)の順になっている。これを前回と比べると、4頭以下の農家が867戸(31.5%)減少し、5頭以上の農家が26戸(3.2%)増加した。

「肥育中の豚」は100～299頭の農家が881戸(19.6%)と最も多く、次いで1～9頭の農家が856戸(19.0%)、50～99頭の農家が715戸(15.9%)、10～19頭の農家が647戸(14.4%)の順になっている。これを前回と比べると、99頭以下の農家が2,385戸(42.5%)減少し、100頭以上の農家が183戸(16.9%)増加した。

「6ヵ月以上の採卵鶏」は1～49羽の農家が2,232戸で飼養農家の83.8%を占めている。これを前回と比べると、4,999羽以下の農家は2,688戸(51.2%)減少しているが、5,000羽以上の農家は15戸(18.1%)増加した。

「ブロイラー」は10,000羽以上の農家が103戸(36.9%)、次いで5,000～9,999羽の農家が75戸(26.9%)の順になって

いる。前回と比べると、4,999羽以下の農家は70戸(40.9%)減少したが5,000羽以上の農家は30戸(20.3%)増加した。

〔47年以降の推移〕

47年と比べると、家畜・家きんとも飼養農家数が53.1%～69.7%減少しているが、飼養頭羽数は鶏が6.8%減少している他は、24.8%～47.7%と増加した。これは飼養農家の経営規模が拡大していることを示している。

次いで1戸当たりの飼養頭羽数を47年と比べると、乳用牛が164.6%、肉用牛が235.0%、豚が301.3%、鶏が448.8%(49年比)、ブロイラーが253.8%増加した。

11. 農用機械の所有台数

所有台数は前回(53年)と比べると「農用トラクター」15,740台(70.4%)、「ハーベスター」5,072台(59.3%)、「コンバイン」9,719台(44.7%)増加したが、「動力脱穀機」24,364台(27.3%)、「動力散粉機」2,443台(11.9%)、「米麦用乾燥機」8,862台(9.9%)減少した。

表—15 2歳以上の乳用牛の飼養規模別農家数

(単位：戸)

年次	飼養農家数	1～2頭	3～4頭	5～6頭	7～9頭	10～15頭	16～29頭	30～49頭	50頭以上
昭和47年	3 649	677	636	647	594	704	309	66	16
49	2 934	411	410	429	426	677	425	128	28
51	2 496	235	277	358	362	597	470	169	28
53	2 319	180	187	283	284	590	521	225	49
56	2 051	114	144	168	205	475	559	318	68

表—16 肥育中の豚の飼養規模別農家数

(単位：戸)

年次	飼養農家数	1～9頭	10～19頭	20～29頭	30～49頭	50～99頭	100～299頭	300～499頭	500頭以上
昭和47年	14 743	7 613	3 025	1 409	1 134	992	508	42	20
49	11 036	4 537	2 169	1 195	1 016	1 101	840	128	50
51	7 309	2 489	1 312	797	844	913	754	131	69
53	6 694	1 944	1 239	738	793	897	825	160	98
56	4 492	856	647	479	529	715	881	239	146

表—17 6ヵ月以上の採卵鶏の飼養規模別農家数

(単位：戸)

年次	飼養農家数	1～49羽	50～99羽	100～299羽	300～499羽	500～999羽	1,000～1,999羽	2,000～4,999羽	5,000羽以上
昭和47年	31 089	28 686	863	764	191	221	176	130	58
49	16 063	14 681	368	391	128	169	126	140	60
51	8 606	7 723	204	220	69	103	98	111	78
53	5 334	4 677	106	137	46	90	70	125	83
56	2 661	2 232	40	61	25	52	63	90	98

図-12 豚飼養農家数及び飼養頭数

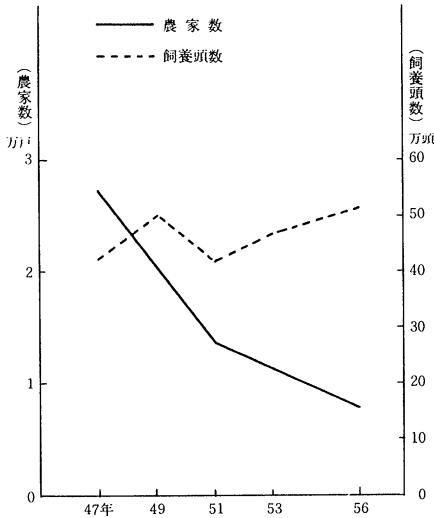
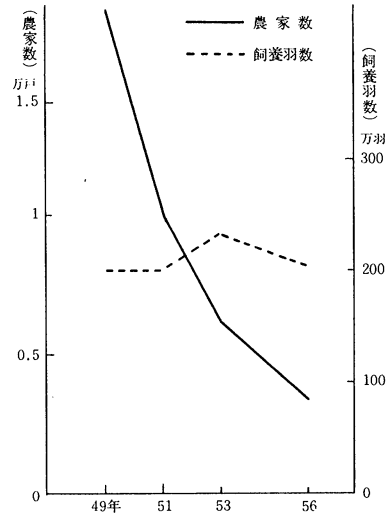


図-13 鶏飼養農家数及び飼養羽数



なお、「動力脱穀機」の減少は農家労働力省力化のため「ハーベスター」、及び「コンバイン」に切替えたものと考えられる。

さらに、全般的に農用機械が増加していることは、農業従事日数が減少し農家における労働の合理化を推進させていく要因となっている。

〔47年以降の推移〕

47年と比べると、「動力田植機」1,163.9%、「コンバイン」が774.7%、「農用トラクター」551.6%(49年比)、「動力刈取機」175.6%、「育苗機」91.1%(49年比)、「農用トラック」83.5%増加したが、「動力脱穀機」44.5%、「米麦用乾燥機」13.8%、「動力耕うん機」5.4%(49年比)減少した。

表-18 農用機械所有台数

(単位：台)

年次	動力耕うん機	農用トラクター	防除機			動力田植機	育苗機
			動力噴霧機	動力散粉機	走行式動力防除機		
昭和47年	5 381	...
49	151 178	5 849	16 450	16 990
51	152 816	11 708	32 776	26 454
53	155 393	22 364	45 652	20 467	2 144	50 819	31 337
56	143 081	38 104	51 044	18 024	2 538	68 011	32 474

年次	動力刈取機	米麦用乾燥機	ハーベスター	動力脱穀機	コンバイン	農用トラック	トレンチャー
昭和47年	22 382	93 923	...	116 846	3 597	24 048	...
49	40 155	96 144	...	113 684	8 189	30 350	...
51	53 357	95 468	...	103 774	14 225	36 541	...
53	58 687	89 810	8 547	89 238	21 742	44 406	...
56	61 686	80 948	13 619	64 874	31 461	44 118	1 212

(統計課・農林経済グループ)